

京の都 宮廷文化のリアル

—埋もれた「時」を解き明かす—

「宮廷文化」というと、現代に生きる私たちには縁遠い、過去のものと感じる方が少なくないでしょう。しかしながら、案外、身近なところに宮廷文化は生きていて、私たちに思いがけない体験をさせてくれます。

代々、宮廷文化を支えるお役目を担った家柄の方々が、現代に至るまで、その文化の継承活動をしていらっしゃることは言うまでもありませんが、有職（ゆうそく：当時の行事や儀式などの知識）をあらためてひもといてみると、平安時代の宮中の出来事から、これまで見過ごされてきた事実が浮かび上がることがあります。また、近世の宮中の文化を伝える「生（なま）」の史料は、同志社大学が所蔵するものだけでも、ご紹介していないものがまだまだあるのです。

そこで、今回は、末松剛氏（日本文化史）による即位式絵図をめぐる歴史研究からのご講演、大山和哉氏（近世和歌）による同志社大学所蔵二条家文書のご紹介のほか、衣紋道（えもんどう：宮廷装束を端正に着付ける道）のお家柄ならではのエピソードを、山科言親氏（衣紋道山科流若宗家）よりうかがいます。

また、宮廷文化を肌で感じ、埋もれた「時」をリアルに解き明かしていくためのひとつの手がかりとして、古典籍に記される文字が読めることも重要です。深川大路氏（情報科学）からは、計算機による変体仮名解読の最前線をご紹介します。

以上の講師陣に、令和元年度、第11回日経小説大賞受賞を受賞された夏山かほる氏をディスカッションとしてお迎えしてパネルディスカッションを行い、それぞれのお立場から「宮廷文化」を現代に伝える意義を語っていただきます。

なお、会場では、富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社、文化推進京都工房による古文書複製技術のプレゼンテーション（現代によみがえる古典籍の世界）や、(株)NEW DOMAINによる宮廷文化をモチーフにした展示を行います。

同志社大学人文科学研究所第21期第6研究会代表

同志社大学文化情報学部教授 福田 智子

講演テーマ

- 末松 剛（すえまつ たけし）九州産業大学地域共創学部教授

即位式絵図にみる宮廷儀礼の世界

- 山科 言親（やましな ときちか）衣紋道山科流若宗家

現代における公家文化

- 大山 和哉（おおやま かずや）同志社大学文学部助教

和歌が生まれるとき —同志社大学歴史資料館所蔵二条家文書を紐解いて—

- 深川 大路（ふかがわ だいじ）同志社大学文化情報学部助教

A I 協働による古典研究の可能性

登壇者プロフィール

- 末松 剛（すえまつ たけし）

九州産業大学地域共創学部地域づくり学科教授。九州大学大学院在学中より、平安時代の宮廷儀礼に関する文献や絵画を研究する。著作には『平安宮廷の儀礼文化』（吉川弘文館、2010年）ほかがある。宮廷貴族が残した日記や儀式書から、儀礼の時空における式次第や服飾、座の配置などを検討し、日本文化史の観点から儀礼の歴史の変遷を読解する。近年は全国各地に所蔵される江戸時代の即位式絵図について調査と研究をかさねている。

- 山科 言親（やましな ときちか）

衣紋道山科流若宗家。一般社団法人山科有職研究所代表理事、同志社大学宮廷文化研究センター研究員。代々宮中の衣装である“装束”の調進・着装を伝承している山科家（旧公家）の30代後嗣。三勅祭「春日祭」「賀茂祭」「石清水祭」や『令和の御大礼』にて衣紋を務める。NHK「日曜美術館」をはじめ、メディアへの出演や、歴史番組の風俗考証等も行う。旧山科家邸宅である源鳳院にて宮廷文化を題材にした講演会の監修、企業や行政・文化団体への講演やクリエイティブに関するアドバイザー等を務めている。

- 大山 和哉（おおやま かずや）

同志社大学文学部国文学科助教。専門は和歌文学。とりわけ、これまで評価が低かった近世和歌に注目することでその実態と魅力を読み解き、人々と和歌とのかかわり方の新たな側面を明らかにするために研究を続ける。和歌の草稿（詠草）や、師匠からの添削指導記録などの生々しい資料の魅力にとりつかれ、今回は、同志社大学歴史資料館所蔵の二条家文書の中から、とくに女性の和歌詠草に着目、和歌ができあがる軌跡をたどる。第18回日本近世文学会賞受賞。

- 深川 大路（ふかがわ だいじ）

同志社大学文化情報学部助教。京都大学工学部情報学科卒業、京都大学大学院情報学研究科修了。博士（情報学）。専門は計算機科学、特に離散最適化問題に対するアルゴリズム。同志社大学文化情報学部においては、福田智子教授と共同で、探求型演習授業を担当し、伊勢物語絵巻や百人一首かるたなど、日本古典文学作品を中心に、くずし字データベースの構築や要素技術の整備をおこなっている。

- 夏山 かほる（なつやま かほる）

福岡女子大学・九州大学大学院での研究経験を生かし、源氏物語を中心に平安物語文学をベースにした時代小説を執筆。『新・紫式部日記』で2019年第11回日経小説大賞受賞。選考委員辻原登氏の激賞を受け作家デビュー。第二作『源氏五十五帖』も好評を博し、第三作準備中。デビューより一貫して、言葉の力、物語の力の可能性を大胆に描く。今回は、平和で安定した社会の象徴としての宮廷文化の意義を創作者の視点から語る。

- 福田 智子（ふくだ ともこ）

同志社大学文化情報学部教授。福岡女子大学文学部国文科卒業、九州大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士（文学）。専門は平安文学・和歌文学。近年は香道にも興味を持つ。著作には、『平安中期私家集論—歌人・伝本・表現—』（単著・勉誠出版、2007年）、『恵慶百首全釈』『順百首全釈』『好忠百首全釈』（筑紫平安文学会著、風間書房、2008・2013・2018年）の他、『竹幽文庫の香道伝書 香道調度図・香道籬之菊』（共著、淡交社、2020年）がある。